

07/Nov.2012

06:56 時を告げるトリの声とともに起床

10:00 タクシーでビエンチャン空港へ。

昨日ゲットした Lao Air のチケットで、ルアンパバーンへ向かう。

11:50 離陸。(11:35 離陸予定が)

12:30 ルアンパバーン空港着陸。ツクツクにてホテルへ。

ホテルはアンシェントルアンプラパン (Ancient Luang Prabang)。ナイトマーケットが開かれるメインストリート沿い。

チェックイン、一休みの後、ホテル前の屋台でサンドイッチとパインジュースで昼食。

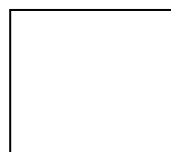
13:00 ツクツクにて、街歩き。

今回はルアンパバーンが目的ではない。中継地として、明日はバスでウドムサイへ向かう。次の行程で、夜までの時間を過ごすこととする。

ワットパバートタイ (Wat Pha Baht Tai)、タラート (マーケット) 見物、メインストリート (シーサワンウオン通り、サッカリン通り) の散策、夕食、ナイトマーケット見物とする。



←ホテル裏の排水路。
下水はまだまだ夢物語



↑動画

朝はトキを告げるトリの声で起床する。大都市ビエンチャンでも各家庭で鶏が飼われる。自然交配で孵化して育成し、採卵し、時に処理して食する。放し飼いである。従ってクックズーズルズーである。懐かしい。犬の遠吠えも。



↑ビエンチャン空港。日本の援助によるもの。1階到着ロビー、2階出発ロビー。3階レストランなど。ここにはツクツクは見られなくなっている。一階には韓国車が展示されている。130万円程度と宣伝されていた。5年前と比較して、まちを走る車は韓国車の割合が増加している。6~7割が韓国車で占められる。ヒュンダイ、キアである。バイクは日本車が圧倒している。ホンダ、ヤマハ、スズキである。



↑ビエンチャン空港を離陸。高度をあげて、ルアンパバーンへ向かう。機体はエアバス A322



←ルアンパバーンまでは全て山中。下を流れるのはナムソン川か？バンビエンの街並みや、ナムグムダムが見える筈だが、わからない。5年前はバンビエンから7時間のバスで移動した。Air では約45分の所要時間である。搭乗率約7割。殆どが外国人観光客。世界遺産の古都に向かう。日本人観光客は我々の他に一人。



期せずして、上空からラオス政府を悩ませる森林の機能疲弊を目の当たりにする。全土の林野率は71.6%。その森林被覆率は41%程度。90年代以降、急激に森林減少が進んでいると言われる。二次林の伐採、輪刈焼畑での陸稲栽培が進んでいる。

出作りの小屋が設置され、山中深く裸地になった小道が続いている。低地の焼畑はやがてトウモロコシなどの換金作物の常畑化（恒常的な農地）を来し、再び森林に変わることは無い。森林は小動物捕獲、林産物の採取など木材以外の多様な林産物の活用で貧しい生活を貴重な食材や生活用品資材としてうるおしてきたのであるが常畑化によってこれらの採補の道を閉ざすことになり、人口増とあいまって一層の貧しさを来すと言われる。

← 政府も森林政策を進め、一方、乾季でも水を必要としない新規作目の作付奨励などの手を打っているところである。常畑化とそれに係る中国の進出の実態をこれから訪れる或る村で見ることとなる。また政府の新規作目の導入による二毛作化の取り組みを新聞記事で見ることとなる。



↑ビエンチャン離陸後、すぐに着陸態勢に入る感じ。下を蛇行するのはナムカーンの流れか？この流れに沿って、間もなくバスはルアンパバーンに入ったことを思い出す。山に囲まれた台地状の空港に着陸するようだ。町なかからは、プーシーの丘をかすめて、着陸するように見える。



←ルアンパバーン
空港に降り立つ→



ワットパバートタイ (Wat Pha Baht Tai)

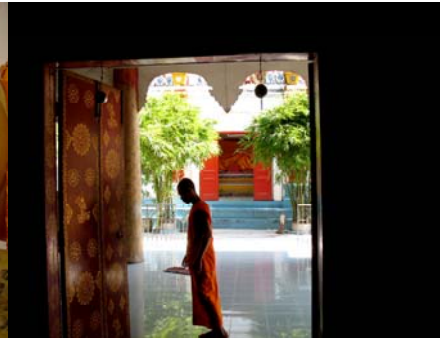
ルアンパバーンの他の寺院とは異なり、ベトナム風の寺院。黄金の寝仏が横たわる。



↑ エントランス



↑ 黄金の寝仏



↑ 見学者は当方のみ。入場料1万 Kとあるのに誰もいない。声をかけるとこの少年僧が仏堂に案内。けだるい暑い午後である。



↑ 仏堂内の仏像。女性的

建物内→
このような壁画がびっしり描かれている。仏陀に関する壁画だが、その質は？



タラート（マーケット）見物

ワットパバートタイ近くの市民が足を運ぶタラート。ここには外国人ツーリストの姿は無い。食料品から生活雑貨、衣類、電気製品まであらゆるものが豊富に売られている。



←↑なつかしいタバコを扱う店を紹介します。刻みタバコが量り売りされます。店先では女性が器用に細い棒を使って紙で巻き、ビニール袋に10本ずつ入れて、100円ライターの炎で密封する。一袋5円で販売。軽い味で中々のもの。



←動画
買い物の様子



↑あらゆる物が手に入ります。乾物屋の隣が、履物屋その隣がシャンプーや化粧品、衣類・・・といった具合。例によって商品は中国、ベトナム、タイから来たもの。

メインストリートの散策

↓ワットマイ（wat mai）5重の美しい屋根が特徴。子供たちの遊び場でもある。その向こうに修行僧。



↑この通り700mにわたってナイトマーケットが開く。午後4時過ぎ。間もなく交通遮断して準備される。





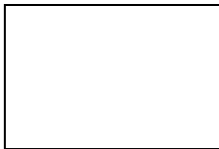
←旧王宮・博物館→



←動画

ナイトマーケットの雰囲気をお楽しみ下さい。
周辺の村々から現れて毎夜、裸電球の明かりの下で路上に店が開かれます。あらゆる物が並べられます。アンティークなミャンマーのものだと言う、パイプ、ドラッグの流通に使われたと思われる携帯用竿はかり、天秤はかり、アヘン吸引器具。化石(？)、石器時代の石おの、貨幣に使われたという金属片、昔にヒッピーが路上で売っていたような金属の装飾品、エスニックなプレスレット、木や竹、紙を素材にした生活用品などなど、興味は尽きず見て歩くだけで楽しい。

何と言っても、ラオスの地域産品は織物である。農家婦人の手織りの布やこれらを素材にした洋服、バッグ、スリッパなどの履物等々が大部分である。エスニック、アジアンテイストが好まれるのか、外国人観光客が買って行く。



←動画

時にはこんなパフォーマンスに出くわすことも。
竹製品の店で、こどもたちが竹の反発力を応用した小鳥捕獲ワナを実演して見せてくれた。仕掛けた稲穂などの餌をついばむと、フックがはずれて細い糸が獲物を引っ掛ける。
子供たちは山に入り動物性たんぱく質を確保する。
このワナも商品として売っている。



←サッカリン通りのはずれのラオス料理レストランで夕食。スプリングロール(はるまき)、特産のソーセージ、スープ、ピアラオ。店内には外国人観光客の団体客。

「ルアンパバーン」

ルアンプラバン(Luang Prabang)は新しい名称で、正式にはこの呼称が使われる。ベトナム戦争時代、アメリカ側のニュース映像でしきりにこの名称を耳にしたことを思い出す。

ルアンパバーン(Luang Phabang)は旧名称で、古き王国時代を懐かしんで、また、この山あいの古都に誇りを込めて、これを冠にしたレストランなどの名称として使うことも多い。

ここではこの表記を使うことにした。